

12/22～ 多文化共生

本日のテーマは、「多文化共生」です。

みなさんは「多文化共生」という言葉を知っていますか。多文化共生とは、国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくことと定義されています。日本人も外国人も、地域の一員として共に認め合い、互いに力を合わせながら、社会を発展させていこうという考え方です。

今回は、丹波市地域おこし協力隊員として、多文化共生社会の実現のために活動している潮 華音（うしお かのん）さんに取材をしましたのでお聞きください。

～以下録音内容～

12月1日より、丹波市地域おこし協力隊員として着任しました潮 華音です。丹波市の多文化共生社会の実現の一助となれるように頑張ります。よろしくお願いします。

さて、私は多文化共生というテーマで活動させていただくのですが、決して専門的な知識を持っているわけではありません。まだまだ勉強途中の身ではありますが、多文化共生を実現するうえで私が大切にしたいと思うことを一つご紹介します。

それは「相手の国籍や見た目などで“〇〇人”や“外国人”とひとくくりにする、グルーピングをしない」ということです。日本人でも人によって性格も考え方も全然違いますよね。だから、「〇〇人は、～だ」とか「外国人は、～だ」とひとくくりにして見ない、話さないようにすることが大切だと思います。

こんなことを言っているのですが、以前の職場の日本語学校で日本語教師として働き始めたばかりの頃、クラスにいたある国の出身の留学生が、3人ともそろって態度がよくありませんでした。授業を真面目に受けなかったり、寝るのは日常茶飯事で、注意したり起こしたりすると反抗的な態度をとっていたため、新米教師の私は相当なショックを受けました。「〇〇人留学生はこんなにふてぶてしいのか」と、私自身この時はグルーピングをして、ネガティブなイメージをもってしまいました。ですが、ほかのクラスで出会った同じ国出身の学生は、授業態度も良く、まるでお笑い芸人のようにクラスのムードメーカーで、また別の学生はシャイだったり、本当に十人十色でした。だから、一つのクラスに同じ国出身の学生がたくさんいたとしても、「彼ら」ではなく、ひとりひとりと向き合わないといけないと感じました。

冷静に考えれば、一人ひとり違うことは、当たり前にも思えますが、グルーピングは無意識にしてしまうので怖いと思います。また、グルーピングは、決して悪意がなくても相

手を不快にさせたり、モヤッとさせてしまうことがあります。例えば、「～さんって、〇〇人らしくて温厚な性格だね」など、個人として見られていない感覚を相手に与えてしまう可能性があります。悪意があるないにかかわらず、このように国籍や見た目などで一括りにするのではなく、一個人として接することが大切です。

言葉や文化が違って、誰もが暮らしやすい多文化共生のまちづくりを一緒に進めましょう。